OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ウェブログの計量的文体研究 : 文とウェブ記号の関係を中心に
Author(s)	岸本, 千秋
Citation	阪大日本語研究. 2017, 29, p. 71-99
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/60635
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』29（2017）

ウェブログの計量的文体研究
―文とウェブ記号の関係を中心に―

A Study of Quantitative Stylistics in Blog
―Relations between “Sentence” and “Web Mark” ―

岸本 千秋
KISHIMOTO Chiaki

キーワード：ブログ、文、ウェブ記号、文長、品詞構成

要旨

ブログの文章は、ウェブ記号（カッコつき文字・フェイスマーク・絵記号）が付加された文と、付加されていない文とが混在して構成されている場合が多い。この2種の文につき、ウェブ記号が付加された文はウェブ記号を削除し、ウェブ記号が付加されていない文については句点を削除した上で、文長と品詞構成比の二つの側面から比較を行った。その結果、ウェブ記号が付加された文は、付加されていない文よりも有意に文長が短いことが分かった。また、品詞構成比の比較においては、感動詞、形容動詞、動詞、副詞、形容詞の各語が多く使われている文にウェブ記号が付加しやすく、その中でも、特に、感動詞、形容動詞、副詞については、ウェブ記号が付加されていない文との違いが大きいこと、また、連体詞、名詞、接続詞の各語は、ウェブ記号が付加された文には使われにくいことも明らかになった。述べたい内容が異なれば、文長も、また、どのような品詞の語を選択して文を作り上げるかも、それぞれおのずと違いが生まれてくるということである。以上の結果から、感情を伝えるためには、長々とことばを連ねるよりも短い表現の方が好まれ、そのような感情重視の文にウェブ記号が付きやすく、反対に、物事を具体的にかつ論理的に述べようとする説明的な文は必然的に一文が長くなり、そうした書き手の感情を組み入れる必要がない文にはウェブ記号が付きにくいという考察を行った。そして、「書き手の感情を勢いよく述べるため」の「文長が短くて、感動詞、形容動詞、副詞に相当する語が多い文」にウェブ記号が付加されやすい傾向にあると結論付けた。さらに、この結論を受けて、感動詞とウェブ記号の出現位置という視点から、ウェブ記号の機能について考察を加えた。

1. はじめに

1990年代後半から電子メディアが急速な発達・普及をしてきたことにより、コミュニケーション行動と、そのコミュニケーションを行う手段に大きな変化がもたらされた。しかし、急速な電子メディアの普及によって生み出され、変化してきたのはコミュニケーション行動だけではない。人間のコミュニケーションにおいて、もっとも重要で基本的な役割をもつといえることばにも影響をおよぼした 。

メディアを研究対象として考える場合、どのメディアを対象とするかということと、そこで

のコミュニケーションの様態がどうであるかを明らかにすることは、大きなテーマの一つである。その中で取り上げられることが多かったのが携帯メール（ケータイメール）である。携帯電話の出現によって変化した言語行動については、「10 数年前には当然のように繰り返されていた日常生活の行動の一部は、いまではまったく様変わりしている」（三宅2011：156）と、その変化の大きさが指摘され、また、そこでのコミュニケーション行動についても多くの論考がある[1)]。コミュニケーションのありようでとらえれば、たとえば、ケータイメールは、送信者と受信者が確実に存在しており、基本的に、1対1のパーソナル・コミュニケーションで、パーソナル・メディアである。他方、テレビや新聞などのマス・コミュニケーションは、視聴者・読者という多数の受け手が存在しているマス・メディアである。

では、本研究で扱う、インターネットを利用したウェブログ（以下、ブログ）[2)]はどうかと考えると、ケータイメールのような1対1のパーソナル・メディアではなく、かといって、マス・メディアでも決してない。だが、インターネットという不特定多数の人間から閲覧される可能性をもつ媒体の特性を無視してブログの存在をとらえることはできない。したがって、ブログを書くことは、コミュニケーションを目的とする行動の一類型と考えてよいだろうという推測は成り立つ。

とすれば、ブログのコミュニケーションとはどのようなものか。情報の形態から考えれば、パーソナルでもなくマスでもない。また、発信者（つまり、ブログの書き手）の意識においても、コミュニケーションを志向しているかどうかは、その志向の強弱も含めて同質ではない。さらに、ブログは「個人が日記形式で書き込めるウェブサイト」と説明[3)]されているように、その体裁は基本的に日記である。これらのことから、岸本（2006）では、ブログを中間的なメディアと位置づけている。コミュニケーションの機能をもってはいるが、それを目的としているかどうかは一概には言えず、また、公開の意識の有無も人によって違うからである（岸本2003）。

したがって、本稿では、書き手と他者とのコミュニケーションのありようについては扱わず、書かれたことばそのものを考察対象とする。本来、公開とは対極にあると思われる私的な分野にあるはずの日記が、インターネットを利用して（理論的には全世界に向けて）公開されている。この、一見、相いれない事実において、「ことば」がどう使われているか、どのような現れ方をしているのかを探ることを目的の中心に置く。本稿では、その中でも、特に、文と記号類[4)]との関係に注目する。

以下、本稿の構成を示す。2節では、ブログの文章において、記号類がどのように使われているかを例示し、それによって、記号類が、それらが現れる直前の文の内容と無関係に出現するものではないことを確認する。さらに、ブログの特徴の一つとして、一般的な書きことばに比

べて記号類が多く出現することを示し、記号類が文体に影響を与える可能性があるという予測を述べる。3節では、絵文字などの記号類についての先行研究を紹介し、それらに不足している論点を指摘する。4節では、本稿の目的を述べる。具体的には、文体を明らかにするための指標として、文長と品詞構成比とを用いること、また、それらを指標として用いることが適切であることの根拠を説明する。5節では、調査の概要と分析方法とを示す。6節では、記号の有無によって文を二分し、それぞれに文長と品詞構成比との調査を行う。まず、記号の有無によって、文長に有意差があることを示す。次に、文を構成する品詞の種類も、記号の有無によってその多寡に違いが確認されることを示す。そして、得られた結果をもとに考察を加える。7節では、調査結果についてのまとめを行い、8節では今後の課題を述べる。

2. ブログにおける記号類の位置づけ

一般的な書きことばでは、文末に句点「。」が付されるのが原則である。たとえば、次の（1）のように、句点が打たれた箇所で、その文が終わっていることを示す機能をもつ。通常、文が終わることを示す以上の機能や、それ以外の意味はもたない。

（1）　そういえば明日の体育マラソンだぁ。

また、読点「、」は、多義文を避けるためなど、読みやすい文を書くことを目的として文中に用いられる。その打ち方については、いくつかの目安があるが、読点の前後にある語句の意味内容に対して直接に影響を及ぼすことはないと言える。

一方、ブログやケータイメールなど電子メディアの発達・普及によって登場した書きことばには、句読点の代わりとして絵文字やフェイスマークなどの記号類が用いられることが多々ある。たとえば次の（2）（3）（4）は、ブログの一文であるが、文末には句点がなく、代わりに記号類が用いられている。本研究では、これらブログに用いられる記号類を「ウェブ記号」と称する（岸本2006）。「ウェブ記号」の詳しい説明と分類については5.2節で行う。

（2）　明日デズニーランド行ってきます（東北なまり風に）
（3）　で、昨日は夜、バイト仲間の人のおうちでご飯を食べてきたのだ☆
（4）　明日は早起きできるように頑張るに～～～～～～e（^。^）g_

（2）は「ディズニーランド」と表記するところを「デズニーランド」とし、それが（東北なまり風に）発音することを示す「カッコつき文字」である。（3）は書き手の何らかの心情を☆マークで示す「絵記号」、（4）は書き手の表情を表すことを意図した「フェイスマーク」である。仮にこれらの文末が句点「。」であるなら、読み手は文字のみによって文の内容を理解することになる。しかし、（東北なまり風に）が付加されることにより、「デズニーランド」がなぜそのように表記されたのかを読み手は知ることができる。（3）（4）も同様に、記号によって文の内容に書き手の何らかの意図が追加されたと考えるのが自然である。

もう少し詳しく考えてみると、たとえば、用例（2）は、固有名詞として本来の「ディズニーランド」と表記すれば、（東北なまり風に）というカッコつき文字が必要のないものである。しかし、あえて「デズニーランド」と表記しているのは、（東北なまり風に）発音していることを示したいからで、このカッコつき文字は、内容に対する注釈という機能をもつととらえられる。つまり、カッコつき文字は、直前の文のある部分と相互に関連する場合に出現しているという推測が成り立つ。他方、（3）の☆マーク、（4）のフェイスマークは、直前の文の中のどの箇所（部分）と関連しているかは、（2）ほど明示的ではない。仮に、（3）の☆マークが「星」そのものを表し、意味として「夜」を表しているのであれば、「夜」の直後に付加される可能性が高い。そうであれば、後述する三宅（2005）のいう「事物に付加」に相当する。しかし、文末に付加されていることから、おそらく「仲間のうちで一緒にご飯を食べてきた」ことについての書き手の気持ちととらえるのが適当であろう。同様に、（4）も「頑張る」気持ちを、フェイスマークによって補強ないしは補足していると考えられる。つまり、ウェブ記号は、それが付加される直前の文の内容に大きく関係しているというのが筆者の立場である。また、これらの記号類は、表1に示した通り、新聞などの一般的な書きことばと比べてブログにより多く出現するという特徴があることが明らかになっている。表1は岸本（2005）で行った調査結果である。

表1　字種比率　（岸本2005より）　（%）

	漢字	平仮名	片仮名	数字	英字	記号＊
ブログ〈女〉	21.5	60.5	7.4	0.7	1.2	8.6
ブログ〈男〉	23.4	57.7	7.9	1.2	1.8	8.1
新聞の投書	33.8	54.2	4.1	0.0	0.1	7.6

＊???　!!!!　☆★☆　など同種の記号が連続しているものはまとめて1とカウントした。
新聞の投書は1999年の朝日新聞投書欄を対象。一日につきランダムに3文を抽出した一年分。

たとえば、漢字が多く用いられる文章は難しく硬い内容が書かれており、平仮名が多い文章

は平易な内容であるといったイメージをもちやすい傾向にあるのと同様に、ウェブ記号が多く出現するブログには、他の文章とは異なったイメージがあるととらえられる。つまり、ウェブ記号に焦点を当ててブログを扱うことは、ブログの文体を考察する一つの方法として十分にあり得る。そして、それらのウェブ記号は記号単体で用いられることはほぼなく、文章の中でことばと隣接している場合がほとんどである[5)]。この出現状況が何を意味するか。おそらく、ウェブ記号はブログで記された内容と無関係には出現しないであろうという推測が成り立つ。そうであれば、ウェブ記号と同時に出現する文と、それに付随しているウェブ記号との間には、ウェブ記号の出現において何らかの傾向なり法則なりが認められる可能性がある。ウェブ記号は「ことば」そのものではないが、文中に（ことばと同時に）出現することによって、「ことば」の用いられ方に影響を与える可能性があるということである。その傾向や法則を明らかにする一つの方法として、文とウェブ記号との関係を計量的な方法を用いて考察する。

3. 先行研究

電子メディアで用いられる記号類については、特にケータイメールにおける使用に関する論考が多数を占める。たとえば三宅（2005:253-255）では、ケータイメールにおける絵記号（絵文字・顔文字等）について「文字としての市民権を得た」と評した。その上で、それらの役割・機能、出現位置について、①事物を指示、②事物に付加、③身体動作、④プロソディ、⑤感情、⑥雰囲気・リズムとり・句点・読点・トピック転換　の6項目に分類し、それぞれの役割と機能を示した。その具体例は表2の通りである。

表2　絵記号の役割・機能　（三宅2005より）

役割・機能		位置	例
①事物を指示		文中	そっちは🏩何時まで？
②事物に付加	前置	文頭,	🍺飲み会、どうだった？
	後置	文中, 文末	4月からカフェ🍲のウェイトレスとして働きます
③身体動作		文中, 文末	じゃ、入り口のとこってことで🙏
④プロソディー		文中, 文末	あ、なんだ、まだ先かぁ〰
⑤感情	付加	文末	かわいそうにぃ‥😢　ありがと💅
	表現		それじゃぁいまから寝るね😪
⑥（意味希薄）	雰囲気	文末, 文中	よろしくぅ🐱
リズムとり・句点・読点			おっす♪元気！？私は内定も決まってひと安心！
			ところで💡あしたの放課後ヒマ～？
トピック転換			結構書き込みしてあるよ㊙お仕事どう？

三宅（2005:253-255）では、「話しことば、書きことばを考える上でも、特別の注意を払う意味がある」とし、絵記号の役割・機能を表2のように認めている。しかし、文頭、文中、文末の各位置に現れる絵記号については、「データに現れる絵記号を詳細に眺めていると、過半数の絵記号は意味が希薄であり、句読点の代わり程度の役割しか担っていないことに気づく。どのような意味を汲み取るかは、メールの読み手に任せられているのだ」としている。つまり、絵記号の使用は電子メディアにおいて注意を払うべきものとしながらも、「なんらかの機能」という記述にとどまり、句読点程度の意味付けしかなされていないのが現状である。なお、表2で示された「①事物を指示」については、三宅（2005:253-255）が指摘しているのと同様、筆者の収集したデータにもほとんど出現しない。また、「①事物を指示」する絵記号の出現位置は「文中」とされているが、文末がほとんどで文中はほぼない。これは、携帯電話かパソコンかといった機器によって、使用できる記号類の種類に違いがある点も大きいと考えられる。

佐竹（2002：14-15）では、ケータイメールの絵文字、顔文字について、「ことばが表す意味に何らかの情報を追加する役割を果たしている」としている。また、なぜこのような絵文字、顔文字を使用するのかについては、「自分の気持ちを、誤解を招かずに相手に伝えようとしたとき、感覚的に伝えることのできる便利な文字（記号）が、絵文字、顔文字だったのである」と述べ、もっぱら書き手の態度に注目している。

また、中村（2001）は、「感情を豊かにする」、「相手の気持ちを和ませ無用な衝突を避ける」、「単なる修飾」との解釈をしている。

これらは、ケータイメールを分析対象とした論考であり、本稿のブログとはジャンルが異なる。しかし、大きくは電子メディアというくくりでとらえられるもので、顔文字などの記号類は基本的にブログに用いられるものと同種と言って問題ないと考えられる。この記号類は、記号単体で用いられるわけではなく、ほとんどの場合、文と同時に出現する。つまり、文と記号とは無関係であるはずがない。ところが、先行研究では、記号類そのものにのみ注意が向けられ、機能による分類や、書き手の使用態度、使用意識に迫ろうとするのがおもな目的となっており、そこには「文」の視点がない。記号類を、記号類が付加された文との関係に注目し、記号類の有無によって文の違いを明らかにしようとした研究は筆者の知る限りない。

4. 本稿の目的

本稿では、ウェブ記号の有り無しはその直前の文の内容に影響を受けるという予測に立ち、計量的調査により文の内容の違いを明らかにすることを目的とする。端的に言えば、ウェブ記号が付加された文と記号が付加されていない文との違いは、何によるのかということである。

文の内容の違いをとらえるための、もっとも正確な方法は、一つひとつの文について、どういったことを述べているかを詳細に、かつ、丹念に見ていくことであろう。しかし、文の内容というものは、(書き手が異なる大量のデータであればなおさら) 容易にとらえられるものではない。どのような基準・指標を設ければ、確実な内容をとらえられるのかの見極めが困難だからだ。

そこで、本稿では、ウェブ記号の有無が文の内容にどう関係するのか、まずはその手がかりを得るために、文の内容ではなく、形式的な側面に注目したい。具体的には、文長と品詞構成比とによる検討を行う。文長と品詞構成比は、計量文体論において、文章（文）の性格や特徴を検討するために用いる客観的な指標と言えるものである。計量国語学会編（2009）は、その冒頭の「計量国語学概説」において、「考察対象は計量化してはじめて厳密で正確な考察が可能となり」（計量国語学会 2009:1）と述べ、その一例として、谷崎・芥川両作家の文体の違いを文字数を基準とした文長の差で明らかにした波多野（1950）を挙げている。同様に、「日本の計量文体論の萌芽を見た」（計量国語学会2009:16）と述べた箇所にも、波多野（1935）が、谷崎と志賀の文体的特徴を計量的調査によって比較したことを説明するくだりがあり、文字数によって文長の調査が行われたことを示している。

また、樺島・寿岳（1965）は、被験者にある描写的な文章をそれより少ない文字数（つまり要約的な文章）に書き直させ、両者のあいだにどのような変化が生じるかを調査した。その際、「もっともはっきりした変化は品詞の比率に起こる」とし、品詞構成比を文章が描写的であるか要約的であるかを見分ける「客観的なものさし」とした。

もちろん、計量的な方法を用いて文体をとらえる際の指標は、文長と品詞構成比のみではない。たとえば、岸本（2005）では、同じくブログをデータとし、語種構成比、字種構成比について新聞投書欄と比較した。その結果として、語種では、話しことばに近い構成比をもつこと、書きことばに比べて外来語が多いこと、また、字種では、漢字の比率が低く、それ以外の比率が高いことを明らかにしている。しかし、ウェブ記号と文との関係を考察するにあたり、語種・字種からのアプローチは、さほど有効ではないと考える。たとえば、宿泊施設を示す場合には「やどや（和語）」、「ホテル（外来語）」、「旅館（漢語）」のいずれかが選択されるであろうが、その際に「やどや」を用いた文にはウェブ記号が付加しやすく、「ホテル」「旅館」が使われた文には付加しにくい傾向にあるなどという、語種の別がウェブ記号の有無に大きく影響するとは考えにくい。また、字種については、内容と直接に関係するとは言いがたい。

文とウェブ記号との関係を、文長と品詞構成比との側面からとらえようとすることの意味は、以上の前提によっている。

5. 調査の概要と分析の方法

5. 1. データについて

データを収集したのは、「さるさる日記」[6] という日記サイトである。ここでは、登録者が年代別に分けられており、データ収集時（2003 年 3 月現在）の登録者数は、10 代～ 30 代が最も多い。その中から、19 歳から 22 歳の書き手に限定しデータを収集した。この年代では、ウェブ記号を多用するなど、特徴的表記が散見される。また、更新が頻繁に行われていることを条件とした[7]。

データの抽出方法としては、標本抽出法の層別抽出法によることにし、登録者の層別として男女の別に分けた。19 歳から 22 歳の登録者数は、女 1 に対して男約 1.15 の割合になっている（2003 年 12 月現在）。そこで、抽出する人数の比を、ほぼ同程度の比になるよう設定した。書き手一人当たり 1 日～ 3 日分のデータをテキストデータとしてデータベースに取り込み、ウェブ記号が付加された文と、そうでない文とに区別した。具体的なデータの数値は表 3 の通りである。

表3　収集したデータ

	対象人数（人）	ウェブ記号アリ（文）	ウェブ記号ナシ（文）	計（文）
女	486	2,138	14,445	16,583
男	597	1,848	15,709	17,557
計	1,083	3,986	30,154	34,140

「さるさる日記」が開設されたのは 1999 年であり、インターネット上にブログサイトが登場し始めた初期にあたる。その後、2003 年に無料で開設できるサイトが登場したことにより、多数のサイトが登場し利用者も増え、アクティブブログ（1 か月に 1 回以上記事が更新されているブログ）が 2004 年から平成 2006 年にかけて急増した（図 1）。図 1 によれば、平成 20 年（2008 年）現在で約 300 万ブログがアクティブブログとなっている。このような流れの中において、進化や変化が目覚ましい電子メディアという媒体の特性もあり、ウェブ記号についても種類がバラエティーに富むようになるといった変化が見受けられる。そのような点においては、できるだけ新しいデータを収集し分析対象にすることにより、以前と比較してどれほど新しい種類のウェブ記号が誕生しているかといったことを知るメリットはあろう。しかし、筆者の直感によれば、種類以外の、たとえば記号のみで文章がつづられるとか、出現位置が文頭に偏るなどの極端な用いられ方の変化は観察されない。したがって、本稿における目的において、最新のデータか否かという点はさほど大きな問題ではないと考える[8]。

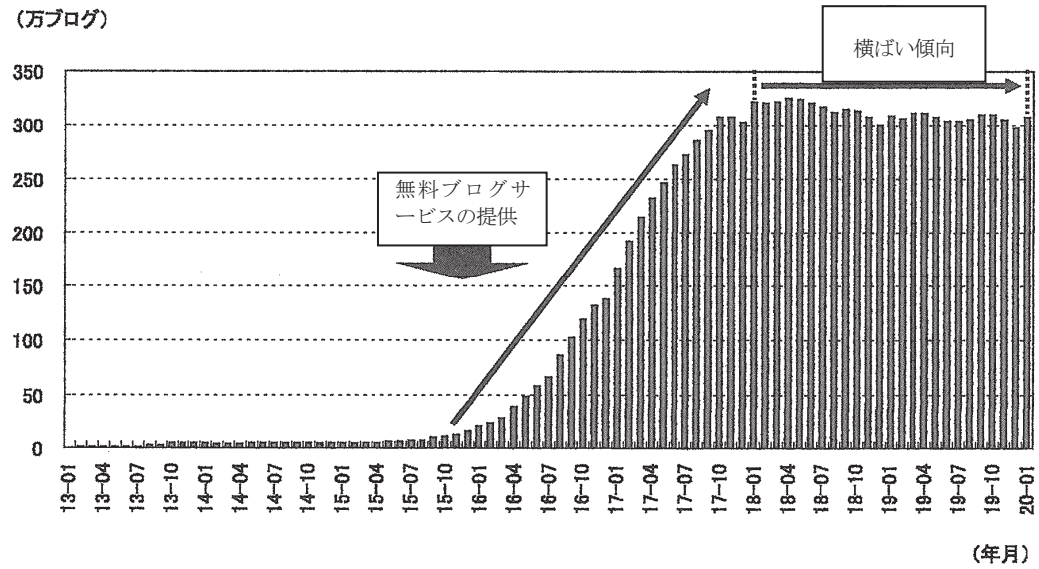

図1　国内のアクティブブログ数の推移　総務省（2011c）より

5. 2. 用語について

本論では、絵文字・フェイスマークなどの記号類を、まとめて「ウェブ記号」[9]と称する。このウェブ記号については、次の通り3分類する。これらは、いずれも、文末あるいは文の途中に記され、多くはその直前の内容が表す書き手の意図を補足したり情報を追加したりする機能をもつという点で共通している。

「カッコつき文字」

丸ガッコ・パーレン（　）でくくられた文字。かっこ内に入る文字はそれだけで意味を成すかどうかは問わない。1字以上、文節数2以下とする[10]。（カッコつき文字は、まれに、後ろのカッコ　）が落ちる場合もある。

例：（笑）（汗）（泣）（爆）（オイ）（待て）（ぉ　（東北なまり風に）　など

「フェイスマーク」

記号を組み合わせて人の顔（表情）や人体のポーズを表したもの。

例：　（^^）　　ヽ（　´ー`）ノ　　（TOT）　　（>_<）　　_|￣|○　など

「絵記号」

上記2種類以外の記号類で、音符やハート、星などをかたどったもの。

例：　♪　　☆　　v　　♡　　など

5. 3. 文長を測る単位について

文長を測る単位には、語数（文節数）と文字数とがあるが、本稿では文字数を採用する。文字数を単位とする立場には、波多野（1935）などがある。これに対して、桑門（1959）において、文節数を単位にして文の長さを測るべきだとの批判が行われた。その批判に対して、波多野（1965）では、大量データを処理する調査では、文節単位よりも文字数を単位とする方が、時間的にも早く処理できること、また、文節は学説によってその認定に異論があるため、文字数の方が適しているなどの反論を行った。さらに、文字数と文節数とには相関が見られることを挙げ、大量調査の場合に、文字数を文長を測る単位とすることに問題はないとした。

また、本稿では、4節で述べた通り、ウェブ記号が付加された文と記号が付加されていない文との比較を行うが、文節数よりも文字数の方がデータのとる値の範囲（最大値－最小値）は大きくなる[11)]。つまり、記号の有無という点で二群を比較した際に、文長平均値の差をより検出しやすいと考えられる。以上のことを理由として、文長を測る際の単位として文字数を採用することとする。

5. 4. 品詞の認定について

本稿では、品詞の認定に形態素解析システムUnidic-mecab[12)]を利用する。ただし、Unidic-mecabの「形状詞」は「形容動詞」と読み替える。参考までに、次の〔原文〕に対する解析結果の一部を表4に例示する。

〔原文〕

選ばなきゃ何処だってすぐ出来るじゃん。言うけどさー　あ、そうだ。ちゅーたんの所手伝うから雇ってよ

（原文では改行がある。また、ウェブ記号は削除した）

表4　Unidic-mecabによる解析結果の具体例

書字形	発音形	語彙素読み	語彙素	品詞
選ば	エラバ	エラブ	選ぶ	動詞－一般
なきゃ	ナキャ	ナイ	ない	助動詞
何処	ドコ	ドコ	何処	代名詞
だ	ダ	ダ	だ	助動詞
って	ッテ	ッテ	って	助詞－副助詞
すぐ	スグ	スグ	直ぐ	副詞
出来る	デキル	デキル	出来る	動詞－非自立可能
じゃん	ジャン	ジャン	じゃん	助詞－終助詞
。			。	補助記号－句点
言う	ユー	イウ	言う	動詞－一般
けど	ケド	ケレド	けれど	助詞－接続助詞
さー	サー	サ	さ	助詞－終助詞
あ			ぁ	補助記号－一般
、			、	補助記号－読点
そう	ソー	ソウ	そう	副詞
だ	ダ	ダ	だ	助動詞
。			。	補助記号－句点
ちゅ	チュ	チュ	ちゅ	副詞
ー			ー	補助記号－一般
たん	タン	タン	痰	名詞－普通名詞－一般
の	ノ	ノ	の	助詞－格助詞
所	トコロ	トコロ	所	名詞－普通名詞－副詞可能
手伝う	テツダウ	テツダウ	手伝う	動詞－一般
から	カラ	カラ	から	助詞－接続助詞
雇っ	ヤトッ	ヤトウ	雇う	動詞－一般
て	テ	テ	て	助詞－接続助詞
よ	ヨ	ヨ	よ	助詞－終助詞

Unidic-mecab で得られたこのような解析結果を、エクセルに取り込み、単位の切り方や品詞認定に誤りがあれば、その都度、手作業で修正を行う。たとえば、〔原文〕の「あ、そうだ」の「あ」は、感動詞であるが、表4では「補助記号」と認定されてしまっている。また、「ちゅーたん」という固有名詞も、「ちゅ」「―」「たん」と3形態素に切られており、当然、品詞認定は誤ったものになる。このようなものに手を入れた。

なお、UniDic-mecabの出力は「短単位」であることから、その結果には単語だけでなく形態素（造語要素）も含まれるという問題がある。たとえば、「お父さん」が「お／父／さん」、「大学生」が「大学／生」のように切られるため、接頭辞や接尾辞が品詞として認められたり、「電話番号」のような複合名詞が「電話／番号」と2つの名詞に切られたりするため、その分、名

詞が多くなってしまうということが起きる。とくに後者の点は品詞構成比を考える際に影響を与える可能性があるが、本稿では、ウェブ記号が付加された文と記号が付加されていない文との比較を目的とするため、両者について同一の基準で品詞認定を行うことを重視して、UniDic-mecabを利用することにした。

6. 結果

以下、ウェブ記号が付加された文、ウェブ記号が付加されていない文の2種に分け、それぞれに考察を進める。

6. 1. 一文の平均文長

まず、一文の文長を文字数によって比較する。文長をカウントする際には、ウェブ記号が付加された文については、ウェブ記号を削除し残りの文長についてのみカウントする。さらに、句点「。」や三点リーダー「・・・」が付いている文については、それらも削除する。つまり、文字だけを残すようにする。ただ、ウェブ記号が付加された文を見てみると、ほとんどのデータの文末に句点「。」はない。そのため、ウェブ記号を削除すると文字のみが残る。これは、三宅（2005:253-255）でも触れられているが、絵記号は「句読点の代わり程度の役割しか担っていない」という特徴と関係する。特に句点については、ウェブ記号が代替している場合がほとんどであると言ってよい。したがって、もともとウェブ記号が付加されていない文については、ウェブ記号が付加された文に合わせて、句点の1字分を少なくカウントする必要がある。文字だけをカウントの対象とするためである。このようにして得られた文長の平均値とその差の結果は、表5の通りである。

表5　1文あたりの平均文長とその差　（字）

	女	男
ウェブ記号アリ	19.6	21.3
ウェブ記号ナシ	23.9	25.3
差（ナシ−アリ）	4.3	4

表中の「ウェブ記号アリ」は、ウェブ記号が付加された文からウェブ記号を取り除いた文であり、「ウェブ記号ナシ」というのは、ウェブ記号が付加されていない文から句点を取り除いた文のことである。ウェブ記号が付加された文のうち、文字のみで表現されている部分の文長

は、平均で［女］19.6字、［男］21.3字となっている。一方、もともとウェブ記号が付加されていない文の文長の平均値は、［女］23.9字、［男］25.3字である。男女とも、ウェブ記号が付加されていない文の方が、ウェブ記号が付加されている文よりも一文につきおよそ4字多いという結果が得られた。このことからは、より短い内容で表される文にウェブ記号が付加されやすい傾向にあることがうかがえる。

次に、この4字という差に統計的な意味があるのかどうかを確認するために、t検定[13]を行うことにする。ただし、表3で示したデータでは、ウェブ記号の有無によってデータ数が大きく異なっている。そこで、サンプルサイズが同数になるよう、再度、データをランダムに抽出し、そのデータに対してt検定を行った。表6に結果を示す。

表6　t検定：ウェブ記号の有無による1文あたりの平均文長（文はランダムに抽出）

	女		男	
	記号ナシ	記号アリ	記号ナシ	記号アリ
データ数（文）	259	259	315	315
文長平均（字）	22.68	18.23	24.4	21.76
文長平均の差（字）	4.45		2.63	
p値（両側検定・検定の種類2）	0.0013584		0.026041352	

文長平均の差は、［女］が4.45字とやや大きくなり、［男］は2.63字と小さくなった。t検定の数値は、［女］が0.0014、［男］が0.026で、どちらもp＜0.05となり有意差が認められる[14]。ウェブ記号が付加された文の方が、ウェブ記号が付加されていない文より文長が短いことには統計的に意味があるということである。

ただし、ここで検定対象としたウェブ記号が付加された文は、文の形を区別していない。文の形とは次のようなことである。たとえば、次の用例（2）、（5）～（8）を見てみると、（6）を除いて句点はないが、文末が通常の終止の形であるという点で、文の形としては完全である。その文末にウェブ記号が付加されているという形である。

（2）　明日デズニーランド行ってきます（東北なまり風に）　　（再掲）
（5）　もう、全身全霊をかけて吃驚した（笑）
（6）　もう見ないもーん。（←舌打ち）
（7）　どうりで交通費がかさむわけだ……（ーー；
（8）　それでですね、イチゴミルクらしき飲み物をお客さんに気づかれないようにスト

ローでちゅーって飲むところを見てしまいました（鼻血）

しかし、当然のことながら、ブログには、これらのように文末が　デス／マス／ダ　などで終わる完全な形をした文だけが登場するわけではない。言いさし文などの中途で終結している文や一語文、体言止めの文、引用された会話文など、さまざまな文が混在している。

たとえば、次の（9）～（13）は、それぞれ「ケド」「シ」「デ」「ニ」「ガ」の接続助詞をともない、従属節で終結している言いさし文である。

（9）っていうか、いきなり仕事ネタじゃない話題なんですけどぉ。（笑）
（10）マフラーも手袋も無くすし・・・(；；
（11）もうどうにかしてくださいって感じで_|￣|○
（12）心臓に悪い内容なので、心臓の弱い方は見ないように（笑）
（13）むぅぅー先立つモノが無かったりですが（笑）

さらに、（14）は一語文、（15）は体言止め、（16）は引用された会話文の用例である。

（14）萌え（ぉぃ
（15）これぞファン精神（笑）
（16）「はぁ、そうです（苦笑）」

言いさし文を主節がともなっていない文と考えれば、完全な形をした文に比べてもともとの文長自体が必然的に短い可能性が考えられる。また、一語文は一つの単語から成り立ち、体言止めは体言に助詞、終助詞などを伴わず終結するという点から、同様に文長の短さが推測される。つまり、これらの文にウェブ記号が付加されやすく、そのため、結果全体にも影響を及ぼし、文長が短くなっているのではないかという疑問である。そこで、その疑問が妥当であるかどうかを確かめるため、データを、完全な形をした文（以下、完全文）と、言いさし文・一語文・体言止めの文・引用された会話文（以下、不完全文）とに二分し、それぞれの文長の差について、再度、t 検定を行う。なお、ウェブ記号が付加されていない文についても、完全文と不完全文とに分けた。両データの文の形を同様にすることで正確さを期するためである。その結果を表7に示す。

表7　t 検定：完全文と不完全文の記号の有無による平均文長（文はランダムに抽出）

	女				男			
文の別	完全文		不完全文		完全文		不完全文	
記号の有無	記号ナシ	記号アリ	記号ナシ	記号アリ	記号ナシ	記号アリ	記号ナシ	記号アリ
データ数（文）	259	259	259	259	315	315	315	315
文長平均（字）	33.4	20.6	21.8	16.5	33.7	22.6	21.9	11.8
文長平均の差（字）	12.8		5.3		11.1		10.1	
p 値（両側検定・検定の種類２）	2.14E-26		0.00002868		4.77E-11		4.59E-12	

表7の文長平均を見ると、記号の有無にかかわらず、やはり完全文よりも不完全文の方が短いという結果であった。［女・完全文・記号ナシ］では33.4字、［女・完全文・記号アリ］では20.6字に対して、［女・不完全文・記号ナシ］では21.8字、［女・不完全文・記号アリ］では16.5字なった。また、文の形を区別しなかった表6に比べて、その値は大きく変わった。たとえば、同じ「記号ナシ」の字数でも、［表6：女・記号ナシ］で、22.68字であったものが、［表7：女・完全文・記号ナシ］では33.4字と11字近くも増え、［表7：女・不完全文・記号ナシ］は21.8字と、わずかに減った。同様に、「記号アリ」では、［表6：女・記号アリ］で、18.23字であったものが、［表7：女・完全文・記号アリ］では20.6字とやや増え、［表7：女・不完全文・記号アリ］は16.5字と、わずかに減った。この結果からは、全データの中で、不完全文が文長の短さに少なからぬ影響を及ぼしていた可能性が高いことが考えられる。中でも、「ありがとうOra2ーーー!!!!」「高い（涙）」「わ～いｖ」「がっかり。」などの一語文は、少ないものだと2字しかなく、これらが文長に影響を与えた可能性は高いと考えられる。この文長の長短をイメージとして表すと次のようになる。

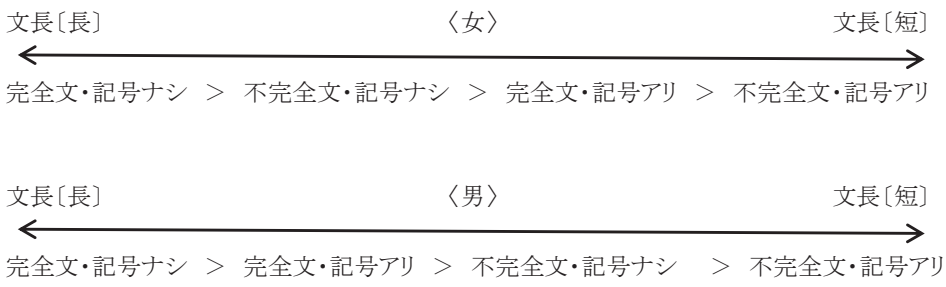

図2　文の形と記号の有無による文長の長短のイメージ

［女］と［男］とでは、［不完全文・記号ナシ］と［完全文・記号アリ］の位置が入れ替わっているが、実際の数値としては、［不完全文・記号ナシ］21.8字と［完全文・記号アリ］20.6字、［完全文・記号アリ］22.6字と［不完全文・記号ナシ］21.9字となっており、それほど大きな違いはない。この結果からは、ウェブ記号が付加されていない完全文は文長が長く、ウェブ記号が付加された不完全文は文長が短いという傾向があると言える。

次に、文長平均の差を確認してみる。記号の有無による文長平均の差は、［女・完全文］で約13字、［女・不完全文］で約5字、［男・完全文］で約11字、［男・不完全文］で約10字となり、文の形を区別しなかった表6の結果と比べると、いずれも大きくなっていることが確認できた。これは、記号が付加されている文、記号が付加されていない文を、それぞれさらに完全文と不完全文という文長に影響を与える基準によって分けたことで、その差がより広がったためととらえられる。したがって、t検定のｐ値も非常に小さなものとなった。たとえば、［女・完全文］の、2.14E-26は、2.14×10＾（－26）のことであり、コンマ以下25桁の0が続くことを意味する。以上のことから、ウェブ記号が付加された文の文長が、ウェブ記号が付加されていない文の文長よりも短いことは、偶然ではなく有意であることが確認された。

次に、文章の性格や特徴を検討するために設定したもう一つの指標である品詞構成比の側面から、ウェブ記号の有無による文の違いに迫りたい。次節では形態素解析による品詞認定を行い、その結果を確認する。

6. 2. 品詞構成比

品詞構成比の調査は、上述した完全文のみのデータについて行った。［女］は、記号アリ、記号ナシが各259文で計518文、［男］は、同各315文で計630文である。まず、品詞の実数とその比率、そして記号アリの比率から記号ナシの比率をマイナスした比率の差について見てみる。プラスの数値であれば、ウェブ記号が付加された文の品詞の方が多く、マイナスの数値であれば、ウェブ記号が付加されていない文の方が多いということである。以下の表8［女］、表9［男］では、比率の差の降順に示している。

表8　品詞構成比：記号の有無別［女］（小数点以下第3位四捨五入）

	記号アリ　実数	アリ　比率	記号ナシ　実数	ナシ　比率	比率の差（アリ－ナシ）
動詞	402	0.308	441	0.271	0.037
形容動詞	106	0.081	98	0.06	0.021
感動詞	20	0.015	14	0.009	0.006
形容詞	81	0.062	99	0.061	0.001
副詞	48	0.037	58	0.036	0.001
連体詞	19	0.015	26	0.016	−0.001
代名詞	16	0.012	26	0.016	−0.004
接続詞	25	0.019	41	0.025	−0.006
名詞	589	0.451	823	0.506	−0.055
	1306	1	1626	1	

表9　品詞構成比：記号の有無別［男］（小数点以下第3位四捨五入）

	記号アリ　実数	アリ　比率	記号ナシ　実数	ナシ　比率	比率の差（アリ－ナシ）
動詞	557	0.283	565	0.25	0.033
副詞	132	0.067	111	0.049	0.018
感動詞	46	0.023	24	0.011	0.012
代名詞	94	0.048	90	0.04	0.008
形容詞	94	0.048	94	0.042	0.006
形容動詞	55	0.028	51	0.023	0.005
接続詞	15	0.008	19	0.008	0
連体詞	20	0.01	36	0.016	−0.006
名詞	955	0.485	1274	0.563	−0.078
	1968	1	2264	1.002	

表8［女］と表9［男］では、どちらも、動詞、形容動詞、感動詞、形容詞、副詞の5品詞（表9［男］では代名詞も）が、ウェブ記号が付加された文の方が付加されていない文よりも多く出現していることが分かる。反対に、どちらもウェブ記号が付加されていない文の方の数値が高くなっているのは、名詞と連体詞（表8［女］では接続詞・代名詞も）である。これらのうち、比率の差がもっとも大きいのは、どちらも動詞と名詞である[15)]。つまり、ウェブ記号が付加された文は、ウェブ記号が付加されていない文よりも、一文において、動詞、形容動詞、感動詞、形容詞、副詞の語を多く含み、ウェブ記号が付加されていない文はウェブ記号が付加された文よりも、一文の中に名詞と連体詞を多く含む傾向にあるということである。これを品詞のもつ意味でとらえれば、「どうした」という文の中で動きを表す語（動詞）や、「どのように・どんな」といった修飾の働きをする語（形容動詞、形容詞、副詞）、書き手の感動や驚き、呼びかけや応答（感動詞）などが、ウェブ記号が付加された文に相対的に多く用いられているということである。反対に、ウェブ記号が付加されていない文の方の数値が高いのが、名詞、連体詞で

ある。このことからは、「何が、何を、どこで」といった事実に関する文の中心的な事柄を表すのに欠かせない名詞と、体言であるその名詞を修飾する連体詞とが、ウェブ記号が付加されていない文では相対的に多く使われる傾向にあることがうかがえる。

これら品詞構成比の結果からは、ウェブ記号は、動きを表したり事物を修飾したり、あるいは、驚きや感動、呼びかけなどの働きをもつ文に付加しやすく、反対に、モノや人など具体的な内容を述べる文には付加しにくい傾向にあると言える。たとえば、次の（17）は、「びっくり」（名詞）した状態を「めっちゃ」（副詞）という語で強調し、その時の書き手の気持ちを「嬉しかっ」（形容詞）たと形容している。末尾に付加されたウェブ記号の　♪　マークは、副詞「めっちゃ」の直後に直接付加されてはおらず、また、接続助詞「けど」で対比的につながっていることから、形容詞「嬉しい」という気持ちに付加されていると考えるのが自然である。（18）（19）は、それぞれ「楽しみ」な気持ちや「こまった」状態を「はぁ」とか「ううーん」という語によって直接的に表している。この用例の場合は、♪　と（＞＜　は、それぞれ文全体に影響していると言える。（20）の「やっぱ」（副詞）は、「嬉しい」（形容詞）にかかる関係にあることから、「嬉しい」という気持ちに　☆　が付加されているととらえられる。

（17）めっちゃ／びっくり／し／た／けど／嬉しかっ／たぁ／♪
　　副詞　　名詞　　動詞　　形容詞
（18）はぁ／、／明日／が／楽しみ／だ／なぁ～／♪
　　感動詞　　名詞　　名詞
（19）ううーん／、／こまた／こまた（＞＜
　　感動詞　　動詞　動詞
（20）で／も／やっぱ／久々／に／好き／な／事／に／打ち込める／の／は／
　　副詞　名詞　形容動詞　名詞　動詞
　　嬉しい／です／ね／☆
　　形容詞

（／は単位の切れ目を表す）

これとは反対に、ウェブ記号が付加しにくい文は、モノや人の名、物事の概念を述べている文である。次の用例（21）は、「そんな」（連体詞）が「訳」（名詞）を修飾し、「麻雀」（名詞）、「1 万円」（名詞）のように名詞を連ね、出来事について説明的に述べている文であり、感動詞や形容詞といった書き手の感情を示す語は用いられていない。（22）も同様に、「金曜日」、「学校」、「効果」、「無料」、「バイト」と名詞を多く用いて述べている内容であり、書き手の心情や

意見などは表されていない。

（21）そんな／訳／で／麻雀／やっ／たら／1／万／円／も／勝っ／ちまい／まし／た。
連体詞　名詞　　名詞　　動詞　　名詞 名詞 名詞　　動詞

（22）金曜／日／に／行け／ば／学校／効果／で／無料／だっ／た／ん／だ／が／
名詞　名詞　　動詞　　名詞　　名詞　　名詞
バイト／で／行け／ず。
名詞　　動詞

（／は単位の切れ目を表す）

6. 3. ロジット変換による再表現

以上に述べた通り、品詞構成比の結果からは、ウェブ記号が付加された文には動詞、形容動詞、感動詞、形容詞、副詞の類が用いられやすい傾向にあり、名詞、連体詞の類は用いられにくい傾向があると言える。ただ、その値の差は、もっとも大きいものでも－0.077（男・名詞）であり、数値の小ささが気になる。

そこで、比率の変化を、よりはっきりととらえるために、次に、ロジット変換[16)]を用いて比率の差を再表現し、もう一度、品詞構成の解釈を試みる。再表現によって得られた値と、元の比率の値とを比較した結果を表10、表11に示す。Logitの表の右端（増減②－①）の数値は、ロジット変換を行った値の差（②）が、比率の差（①）と比べてどれほど増減したかを示したものである。さらに、この差の増減だけを取り出し、視覚的にとらえやすくするため、棒グラフとして図3、図4に表した。棒グラフの差が大きければ、比率の差の増減が大きいことを表す。

表10　比率とロジット変換［女］（小数点以下第3位四捨五入）

比率			
	記号アリ	記号ナシ	アリ－ナシ（①）
動詞	0.308	0.271	0.037
形容動詞	0.081	0.060	0.021
感動詞	0.015	0.009	0.007
形容詞	0.062	0.061	0.001
副詞	0.037	0.036	0.001
連体詞	0.015	0.016	−0.001
代名詞	0.012	0.016	−0.004
接続詞	0.019	0.025	−0.006
名詞	0.451	0.506	−0.055

➡

Logit				
	記号アリ	記号ナシ	アリ－ナシ（②）	増減②-①
感動詞	−2.082	−2.373	0.291	0.254
形容動詞	−1.213	−1.373	0.160	0.139
動詞	−0.405	−0.494	0.089	0.082
副詞	−1.633	−1.649	0.016	0.015
形容詞	−1.358	−1.368	0.010	0.009
連体詞	−2.108	−2.060	−0.048	−0.047
接続詞	−1.968	−1.827	−0.141	−0.137
名詞	−0.098	0.012	−0.111	−0.105
代名詞	−2.195	−2.060	−0.135	−0.080

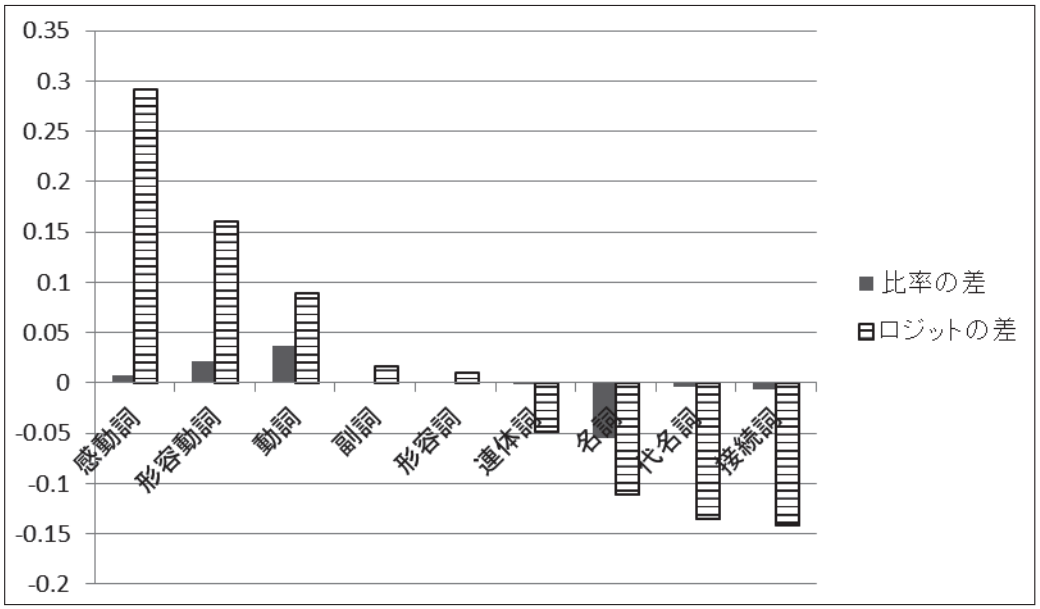

図3　ウェブ記号の有無の別による比率の差とロジット変換の差の比較［女］

表11　比率とロジット変換［男］（小数点以下第3位四捨五入）

比率			
	記号アリ	記号ナシ	アリーナシ（①）
動詞	0.283	0.250	0.033
副詞	0.067	0.049	0.018
感動詞	0.023	0.011	0.013
代名詞	0.048	0.040	0.008
形容詞	0.048	0.042	0.006
形容動詞	0.028	0.023	0.005
接続詞	0.008	0.008	−0.001
連体詞	0.010	0.016	−0.006
名詞	0.485	0.563	−0.077

➡

Logit				
	記号アリ	記号ナシ	アリーナシ（②）	増減②−①
感動詞	−1.866	−2.268	0.402	0.369
副詞	−1.316	−1.483	0.166	0.148
形容動詞	−1.775	−1.885	0.111	0.098
代名詞	−1.496	−1.592	0.096	0.088
動詞	−0.465	−0.55	0.086	0.080
形容詞	−1.496	−1.570	0.073	0.068
接続詞	−2.435	−2.386	−0.049	−0.048
名詞	−0.029	0.126	−0.156	−0.150
連体詞	−2.289	−2.063	−0.227	−0.150

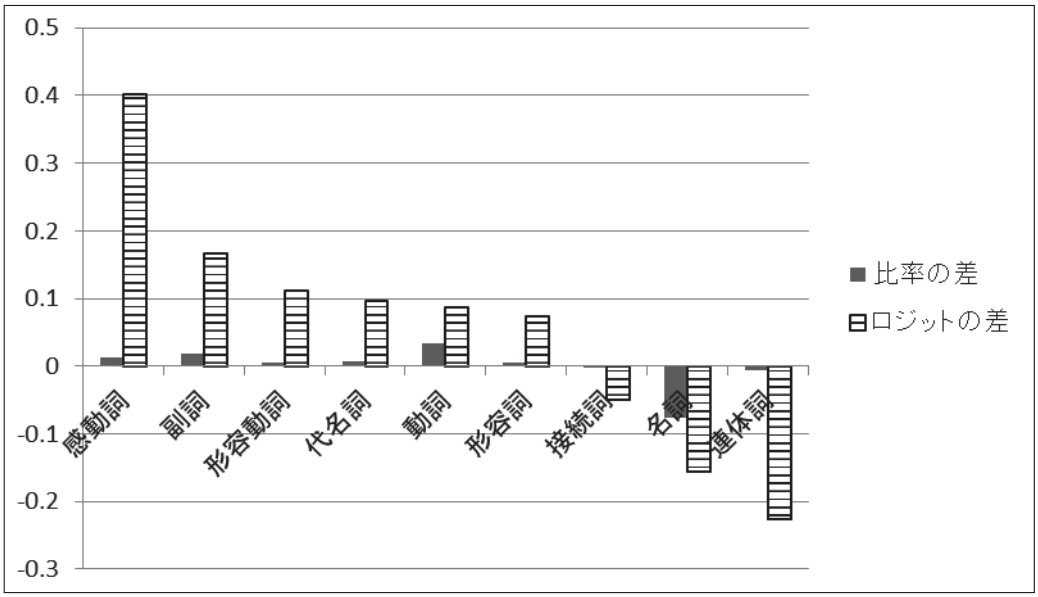

図4　ウェブ記号の有無の別による比率の差とロジット変換の差の比較［男］

表10・図3［女］、表11・図4［男］ともに、まず、注目されるのは、ロジット変換で感動詞の差が大きく増加していることである。前者では0.254、後者では0.369増えている。比率においては動詞の差がもっとも大きかったが、ロジット変換では［女］［男］ともに感動詞の増加が大きくなったことが確認できる。そのほかにも、表10・図3［女］では、形容動詞、動詞、副詞、形容詞が増加し、表11・図4［男］では、副詞、形容動詞、代名詞、動詞、形容詞において増加が認められ、共通する品詞は、感動詞、形容動詞、動詞、副詞、形容詞である。このうち、特に大きく増加したのは、感動詞、形容動詞、副詞（ただし［男］のみ）の3つの品詞である。この結果から、ウェブ記号が付加された文では、これらの品詞の語が使われやすい傾向にあることが分かる。言い換えれば、「感動詞、形容動詞、副詞に属するいずれかの語を用いて文が作成される場合にはウェブ記号が付きやすい」ということである。

6.2節でも述べたが、感動詞は、書き手の感動や驚き、呼びかけ、応答などの意味をもつ語である。また、形容動詞と副詞は、事柄や物事の性質や状態について、「どのように・どんな」といった修飾の働きをする語である。先に示した用例（17）～（20）を改めて見てみると、確かに「嬉しい」「はぁ」「楽しみ」「ううーん」「困った」「嬉しい」「好き」と、書き手の感情を直接的に表す語や、「めっちゃ」という物事の程度の大きさを表す語が使われていることが分かる。

（17）めっちゃびっくりしたけど嬉しかったぁ♪
（18）はぁ、明日が楽しみだなぁ～♪
（19）ううーん、こまたこまた（＞＜
（20）でもやっぱ久々に好きな事に打ち込めるのは嬉しいですね☆

（以上4例、再掲）

以上は、プラス方向に差が増加した品詞であるが、マイナス方向に差が増加した品詞もある。表10・図3［女］では、接続詞、代名詞、名詞、連体詞の4項目であり、表11・図4［男］では、連体詞、名詞、接続詞の3項目である。男女に共通するのは、接続詞、名詞、連体詞の3項目であり、これは、ウェブ記号が付加された文には、これらの品詞の類が使われにくいということを意味する。

用例（21）（22）では、名詞が多いことをすでに確認したが、それと合わせて用例（23）（24）を見てみると、「そして」（接続詞）、「あるいは」（接続詞）、「そこ」（代名詞）、「そんな」（連体詞）といった語が使われている。

（21）そんな訳で麻雀やったら1万円も勝っちまいました。
（22）金曜日に行けば学校効果で無料だったんだがバイトで行けず。

（以上2例、再掲）

（23）そして、そこにWAVEの四角のバーニアを前、右、左に貼り、SSP-HGを盛る。
（24）今回は自民VS民主だけど、自民党側は完全に動きが筒抜けあるいは、読まれている感じがする。

（下線は筆者）

名詞が用いられることについては、すでに述べた通り、モノなどの名や物事の概念を示して、事実を説明的に述べている文であることと関係する。また、接続詞は前後の文や語句をつなぎ、文・文章の流れに大きくかかわる。つまり、接続詞が用いられた文は、それだけ文の論理的な関係に注意がはらわれた文だともいえる。また、代名詞、連体詞は名詞が多いことに関係すると言えよう。このようなことからは、ウェブ記号が付加されない文とは、モノや人・物事を取り上げて、それについて名詞の語を使って書き表し、かつ、文（文章）の流れが論理的になるように考慮しながら、物事や状況を説明的に述べている文であると考えられる。書き手の感情ではなく、事実を述べることにより重点が置かれた文には、ウェブ記号が付加されにくいということである。

6. 4. 文長の差と品詞との関係

以上、文長という側面にも、品詞構成比という側面にも、ウェブ記号の有無による文の違いがあることが確認できた。改めて、次の 2 点を確認しておく。一つは、ウェブ記号が付加された文は、ウェブ記号が付加されていない文よりも有意に文長が短いということであり、もう一つは、ウェブ記号が付加された文と、ウェブ記号が付加されていない文とでは、文を構成する品詞の種類が異なる傾向にあるということである。

筆者は、文長の差を確認した当初、次のようなイメージをもっていた。それは、「ウェブ記号はことばの代わりをしているのではないか」ということである。ことばで書き表すべき部分をウェブ記号が補っているのではないかという予測である。ウェブ記号が付加された文が短いのは、本来、ことばとして表される何らかの成分があえて書かれておらず、そのために短くなっており、その部分があたかも空白のようになっている。したがって、文の意味内容としては、文字で表された内容だけでは不完全なものであるというとらえ方である。その不完全さは、ウェブ記号が付加されて初めて、意味として完成する。つまり、ウェブ記号によって空白が埋められるというイメージである。

しかし、ここまで考察してきた結果を考えると、不足している文の内容を補うためにウェブ記号が付加されているのだとは言い切れず、ウェブ記号の有無が、文の意味として完全か不完全かという点にはかかわっていないことが分かった。では、文長の差と品詞構成比の違いとについては、その関係をどうとらえるべきであろうか。

上に述べたように、調査の結果として言えることは、ウェブ記号が付加された文と、ウェブ記号が付加されていない文とは、文長に違いが認められるという事実と、文を構成する品詞の種類がそれぞれに異なる傾向にあるという事実とである。文長が短いという事実と、文を構成する品詞の種類に違いがあるという、独立した二つの事実である。つまり、調査によって得られた二つの結果が、「ウェブ記号が付加しやすい文に特徴的に認められる」ということであり、それは、「書き手の感情を勢いよく述べるため」の「文長が短くて、感動詞、形容動詞、副詞に相当する語が多い文」にウェブ記号が付加されやすいということである。感情を伝えるためには、長々とことばを連ねるよりも短い表現の方が効果があるだろう。他方、物事を具体的にかつ論理的に述べようとする説明的な文は、必然的に一文が長くなり、そこに書き手の感情を組み入れる必要はない。感情について述べない文には、ウェブ記号が付きにくいということである。述べたい内容が異なれば、文長も、また、どのような品詞の語を選択して文を作り上げるかも、それぞれおのずと違いが生まれてくると言える。

6. 5. ウェブ記号の出現位置と機能

以上、量的な調査によって、文長と品詞構成の二側面から、ウェブ記号の付加しやすい文と、ウェブ記号が付加しにくい文とには、どのような違いがあるのか、その傾向を確認してきた。その上で、次に、ウェブ記号の機能について考えるために、質的な面にも注意を向けてみたい。これまでの考察の中で、ウェブ記号の出現位置は文末に多いということを述べた。繰り返しになるが、ウェブ記号は、品詞の中でも特に感動詞を含む文に付加されやすい傾向にある。その具体例として（18）（19）と（25）を示す。

（18）はぁ、明日が楽しみだなぁ～♪
（19）ううーん、こまたこまた（＞＜　　（以上2例、再々掲）
（25）まぁ、暖房きいてて暖かかったからいいんだけどね（^_^；）

これらの用例について、ウェブ記号が文のどの位置に出現するかという点に目を向ければ、感動詞とウェブ記号とが隣接して出現しているわけではないことに気付く。（18）では「はぁ」、（19）では「ううーん」、（25）の「まぁ」といった感動詞の直後（あるいは直前）ではなく、いずれも文末に　♪　と　（＞＜　　（^_^；）とが現れる。

ウェブ記号は「句読点の代わり程度」（三宅:2005）とされるが、データ全体を眺めれば、読点の代わりの文中よりも、句点の代わりとして文末に出現する方が圧倒的に多い。では、文頭に位置する感動詞と、文末に位置するウェブ記号との関係性、つまり共起はするが隣接はしないという現象をどう解釈すればよいだろうか。

それを考える一つの方法として、ここでは、感動詞がそれ以後に述べられるどの部分と特に関係するかを見てみたい。（18）の「はぁ」（というため息）は、おそらく「明日が」ではなく、文末の「楽しみだなぁ～」と書き手の気持ちを表した部分とより強く関係する。その「楽しみ」という気持ちは、小文字の「ぁ」と長音を表す「～」が付いて「楽しみだなぁ～」と表されている。これを話しことばと仮定すれば、「楽しみだなぁ～」を、疑問の「楽しみ↑？」[17] でもなく、平板な「楽しみ」でもない、音を伸ばすようなイントネーションで書き表しているととらえられる。さらに、その直後に♪が付加されている。ということは、ウェブ記号である♪もまた、「楽しみだなぁ～」を（話しことばでは）どう表現するかというイントネーションや、「ぁ～」という音の長さを表すことにも関係していると考えられる。その上で、文の述べ方として、主観的な態度や意図を表すモダリティが文末形式に現れやすいことを考えれば、ウェブ記号にもモダリティの一部を担う機能が備わっている可能性がある。そのため、ウェブ記号は、文頭や文中ではなく、文末に出現しやすいと言える。

また、モダリティとウェブ記号とのつながりを考えるもう一つの視点として、文末に現れる（18）「な」や、（25）「ね」といった終助詞の問題がある。ブログには、これらの終助詞がよく用いられており、ウェブ記号と共起している場合も多く、ウェブ記号と終助詞との間にも何らかの関係があることが予測される。ただし、紙幅の関係上、これについての考察は稿を改めたい。

7. まとめ

以上、文末に用いられるウェブ記号について、ウェブ記号が付加された文と付加されていない文との差異を、文長と品詞構成比とから探ってきた。その結果、ウェブ記号が付加された文の文長は、付加されていな文の文長よりも有意に短いことが分かった。ブログの文章は話しことばに近い。そのため、書きことばに比べると一文の長さも短い。その中でも、さらに短い文にウェブ記号が付加されやすいということである。また、品詞構成比の比較においては、ウェブ記号が付加された文には、感動詞、形容動詞、動詞、副詞、形容詞の語が使われやすく、その中でも、特に、感動詞、形容動詞、副詞は、ウェブ記号が付加されていない文との違いが大きいこと、また、連体詞、名詞、接続詞の語は、ウェブ記号が付加された文には使われにくいことも明らかになった。

ウェブ記号には、用いられる基本的な決まりは存在しない。単に出現する位置が句読点と同じかよく似ているという程度だ。また、書き手の気分によって、使われたり使われなかったりもするであろう。だから「句読点の代わり程度の役割しか担っていない」ようにとらえられ、その意味を解釈するのは読み手次第ということにもなる。しかし、量的な調査を行った結果、どのような特徴をもつ文にウェブ記号が付加されやすいか、その傾向が明らかになったと言える。

書き手の感情を勢いよく述べるためには、長々とことばを連ねるよりも短い表現の方が効果がある。そのような感情重視の文にウェブ記号が付きやすいということである。他方、物事を具体的にかつ論理的に述べようとする説明的な文は、必然的に一文が長くなり、そこに書き手の感情を組み入れる必要はない。感情について述べない文にはウェブ記号が付きにくいということである。

8. 今後の課題

ウェブ記号の機能・役割をより詳細にとらえ、文との関係を探るためには、量的な調査だけ

ではなく、質的な調査も必要となる。たとえば、本稿ではウェブ記号3種を区別せずに、文との関係を考察したが、それぞれの記号で機能・役割が異なる可能性も考えられる。ウェブ記号はメタ・コミュニケーションの役割があり、特にカッコつき文字は、用例（2）のように、直前の内容に説明や注釈を加える機能を強くもつととらえられる。その内容を詳細に見ていくことで、ウェブ記号の機能の一端に迫ることが可能になると考える。

（2） 明日デズニーランド行ってきます（東北なまり風に）（再々掲）

また、6.5節で触れた、ウェブ記号が感動詞などの類と隣接せずに文末に出現する点についても、さらに考察を深める必要がある。同様に、ウェブ記号の機能という点においては、終助詞とウェブ記号との共起関係についても取り扱う必要がある。

そのほか、ブログには、本稿で調査データから削除した「言いさし文」にウェブ記号が付加されている場合が散見される。ウェブ記号は、直前の文の内容とまったく関係なしには使われないはずだが、では、文全体に影響するのか、それとも一部だけに関係するのかといった点については、まだ明らかにされていない。たとえば、ケド節で終結する言いさし文は、前言を「補正／訂正／補足」する機能をもつとされるが、ケド節にウェブ記号が付加した場合、ウェブ記号も前言を「補正／訂正／補足」するのか、するとすればどの部分についてなのかといった視点は、ウェブ記号の機能をとらえるために有効だと考えられる。

注

1） たとえば、三宅（2005）では、携帯メールが「書きことば」らしさをもちながらも、「話しことば」らしいコミュニケーション空間を形作っているとしている。

2） 筆者のこれまでの論考では「ネット日記」「ウェブ日記」という語を用いていた。しかし平成21年3月に総務省 情報通信政策研究所から「ブログの実態に関する調査研究〜 ブログコンテンツ量の推計とブログの開設要因等の分析 〜」が出されるなど、「ブログ」という名称がより一般的になったことも考慮に入れ「ブログ」という用語を用いる。「ネット日記」「ウェブ日記」「ブログ」は、その内容として大きな差異はない。

3）『新明解国語辞典』第7版　三省堂の語釈による。

4） BCCWJの概要についての報道資料では、「顔文字」などの記号類について、「言語解析の問題点」として「不要な文字列」と評される。（東倉・大山（2008）によるBCCWJ説明資料（PPT資料））（国立情報学研究所報道発表 08__2-1）。http://www.nii.ac.jp/kouhou/NIIPress08_2-2.pdf

5） たとえば、LINE（無料で通話や通信ができるアプリ）などでは、相手とのコミュニケーションを行う際に、スタンプと呼ばれる絵のみを送信する場合がある。つまり、テキストを伴わないやり取りである。

6） URL：http://www.diary.ne.jp/i/　1999年に無料で開設できるウェブ日記サービスとして開始され、2011年に閉鎖した。当該日記サイトには、登録者のデータとして、性別、年代が明示されていた。このデータに

ついては書き手当人に対面できないという点で証明方法がないことが問題点として考えられる。ただし、岸本（2002）ではメールを通じてアンケート調査を行っており、その際の回答などを見ても、登録データと異なる内容はない。したがって、大きな問題はないと考える。

7）「頻繁に更新している」という条件に合致する調査対象に限ってデータを収集したが、調査形態は有意抽出調査ではなく無作為抽出調査に該当するととらえている。

8）つまり、推測の域を出ないが、どういった語や文に記号が付加されるのかという使用の傾向については普遍的な側面があるのではないかというのが筆者の立場である。

9）ウェブ記号のうち、特に、絵記号やフェイスマークは、先に示したケータイメールをはじめ、そのほかにも、フェイスブック（Facebook）、インスタグラム（Instagram）などのコミュニケーションツールであるSNS、ツイッター（Twitter）にもしばしば見受けられる。

10）文節数2以下とするのは、漢字、句レベルの短い内容を対象とする便宜的な措置である。ブログ以外の書きことばにおいても、説明などを付け加えることを目的として、文末、あるいは文中に（　）でくくられた文言が入る場合は多々あるが、たとえ（　）でくくられていても長い文は対象としないという意図である。

11）たとえば、［女］「記号ナシ」の文字数は5字～101字と範囲が広いのに対して、文節数は最大でも26である。文字数に比べて文節数の値の範囲は狭いことが確認される。

12）UniDicは形態素解析システム用の日本語辞書で、MeCab は言語処理のためのソフトウェアであり、フリーで公開されている。UniDic-mecabは、「言語学・国語学や音声情報処理など、より多様な目的に適した体系にもとづくもの」で「国立国語研究所で規定した『短単位』という揺れがない斉一な単位で設計され」「語彙素・語形・書字形・発音形の階層構造を持ち、表記の揺れや語形の変異にかかわらず同一の見出しを与えることができ」るなどの特徴をもつとされる（伝ほか2008）。

13）二つの群（本稿ではウェブ記号が付加されている文とそうでない文との二群）の平均値の差が有意であるかどうかを判別する検定。エクセルの関数を利用した。

14）一般的に、検定の性質として、サンプル数が大きくなると平均値などの差が小さくても有意差が出やすいと言われる。

15）ただ、名詞、動詞以外の順位については、表8と表9とで多少の違いが認められる。これについては、男女の差という観点からアプローチすべきであるが、本稿ではウェブ記号の有無を中心に考察するため、考察については稿を改めたい。

16）渡部他（1985:136-137）によれば、ロジット変換は次のように説明される。たとえば、大学の昨年と今年の合格率を比較して、現役の合格率が0.5から0.6に、浪人の合格率が0.75から0.85に、どちらも0.1上昇した場合、現役の0.5付近と浪人の0.9付近とでは上昇した0.1の差は意味が異なる。それは、0.9より大きい場合は、0.1という比率の上昇が望めないからであり、比率は0.5から0と1の両極にいくに従って、尺度が押し縮められていると解釈するのが合理的である場合が多い。そこで、比率を、0.5を中心に左右対称に両極にいくほど引伸ばされた形の尺度に再表現することが考えられる。ロジット変換は、比率をp、その変換値をqとすると、以下の式により、0と1の区間に設定された尺度を－∞から＋∞に引き伸ばしているということができる。

$$q = \frac{1}{2} \ln \frac{p}{1-p}$$

17）「↑」は上昇イントネーションを表す。

参考文献・参考サイト

樺島忠夫・寿岳章子（1965）『文体の科学』綜芸舎

岸本千秋（2003）「ネット日記作者の言語行動と言語意識－アンケート調査の結果から－」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』第14号　武庫川女子大学言語文化研究所

岸本千秋（2005）「ウェブ日記文体の計量的分析の試み」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』第16号　武庫川女子大学言語文化研究所.

岸本千秋（2006）「ウェブ日記の文体と表現」2005年度大阪大学大学院文学研究科修士学位論文（未公刊）.

岸本千秋（2008）「ウェブ日記に見られる話しことば的文体」『日本語学』27（5）臨時増刊号　明治書院

桑門俊成（1959）『国語文体論序説』誠信書房

計量国語学会（2009）『計量国語学事典』朝倉書店

向後千春・冨永敦子（2007）『統計学が分かる』技術評論社

国立国語研究所コーパス開発センター「UniDicとは」http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/unidic/　（2016.6.1ダウンロード）.

国立情報学研究所・独立行政法人国立国語研究所（2008）「大規模ブログデータの研究基盤の構築―「Yahoo!ブログ」の研究利用による言語研究の新展開 ―」国立情報学研究所報道発表 08__2-1 http://www.nii.ac.jp/kouhou/NIIPress08_2-1.pdf（2016.6.1ダウンロード）.

佐竹秀雄（2002）「変容する「書くくらし」」『日本語学』21-15　明治書院

総務省（2011a）「ICT インフラの進展が国民のライフスタイルや社会環境等に及ぼした影響と相互関係に関する調査研究」報告書　総務省 情報通信国際戦略局 情報通信経済室（委託先：株式会社 NTT データ経営研究所）http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h23_06_houkoku.pdf

総務省（2011b）「 情報通信白書」平成23年版総務省 情報通信国際戦略局 情報通信経済室http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/html/nc213120.html

総務省（2011c）「次世代ICT社会の実現がもたらす可能性に関する調査研究」報告書（委託先：株式会社 KDDI総研）http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h23_05_houkoku.pdf

伝康晴・山田篤・小椋秀樹・小磯花絵・小木曽智信（2008）「UniDic version 1.3.9 ユーザーズマニュアル」http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/~mine/japanese/nlp+slp/UNIDIC_manual.pdf （2016.12.9ダウンロード）

東倉洋一・大山敬三（2008）「大規模ブログデータの研究を開始－「Yahoo!ブログデータ」の研究利用による言語研究の新展開－」2008.04.23報道発表資料　http://www.nii.ac.jp/kouhou/NIIPress08_2-2.pdf（2016.6.1ダウンロード）.

中村明（1990）「解説」『文章心理学』波多野完治全集　小学館　pp.365-379

中村功（2001）「携帯メールの人間関係」東京大学社会情報研究所（編）『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会

波多野完治（1935）『文章心理學 - 日本語の表現価價』三省堂

波多野完治（1965）『文章心理学』新稿版　文章心理学大系1　大日本図書

藤竹暁（2012）『図説日本のメディア』ＮＨＫ出版

三宅和子（2005）「携帯メールの話しことばと書きことば - 電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション - 」『メディアとことば』2ひつじ書房.

三宅和子（2011）『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房

渡部洋他（1985）『探索的データ解析入門 - データの構造を探る - 』朝倉書店.

（博士後期課程学生）
（2016年8月18日受付）
（2016年10月19日修正版受付）
（2016年11月10日掲載決定）